

「海を見て、里に還ろう」～阿多田島から口和が見えた！～

庄原市立^{こうなん}口南小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 社会奉仕 自然 勤労生産

体験活動場所 大竹市海の家あたた

【学校紹介】

○ 本校は、庄原市西部の中山間地の口和町にあり、周りには里山の豊かな風景が広がる。校区には、寒暖の差が大きい気候を利用したブドウ栽培や、休耕地を利用して地域を活性化するための瓢箪^{ひょうたん}づくりが行われている。また全国和牛共進会では、昭和28年より数々の優秀な牛を産出しており、「和牛の里」として全国的に名を馳せている。

児童は全体的に純朴で素直であるが、表現力やコミュニケーション能力において課題が見られる。そこで本校では、算数科を研究教科に設定し、「確かな学力」特に「考える力」「伝える力」の育成を図るとともに、ふるさと「口南」に学び、豊かな感性をもつ児童の育成を目指している。口南地区の農業者の方々とかかわり、様々な農業体験を通して、人間関係形成能力を育成していく取組もその一つである。

- 校長名：江波 正善
- 児童数（学級数）：74名（7学級）
- 所在地：庄原市口和町永田3番地2
- 電話番号：0824-89-2116
- URL：<http://www.konan-e.hiroshima-c.ed.jp/>



学校外観

【体験活動のねらい】

- 日常と異なる海での体験を郷土の生活とつなげ、郷土に対する愛情を育てる。
- 海に生きる人々との交流を通して、自然や水産業に関心をもたせる。
- 献立作りから片付けまで毎日の食事を自分たちで行うことを通して、食を大切にする心を育てる。
- 表現したいことを他の人に分かりやすく説明する力を育てる。
- 生活習慣を見直し、生命を守るために必要な知識、技能を身に付け、よりよく生きようとする態度を育てる。
- 主体的に行動し、集団の目標や自己の役割を達成することの喜びを感じることを通して、自主性・社会性を育てる。
- 体験活動を通して、自己の生き方について探究し、感謝の心を育てる。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
5～ 12月	事前学習 ・農業体験（米作り、ブドウ栽培） ・牛に関する聞き取り活動	24	総合的な学習の時間	ブドウ館 田んぼ 学校	担任 外部講師

5～ 7月	オリエンテーション ・班別目標や学習課題の設定 ・下調べ，ポスター制作※1	3 3	学級活動 総合的な学習の時間	学校	担任
6月	自己の生き方にかかわる学習 資料名「漂流ゴミのゆくえ」3－（2）	2	道徳	学校	担任
	依頼文などの作成	2	国語	学校	担任
7月	食や救急処置に関わる学習 ・全食自炊に向けた献立作り，調理実習 ・けがの手当て	1 2	家庭 体育（保健）	学校	担任
	中間発表会※2	2	総合的な学習の時間	学校	担任
	長期宿泊体験学習（3泊4日） ・海水浴・海岸清掃・漁業体験・炊事 ・洗濯・掃除・阿多田小学校や漁師さんとの交流・生き方学習（へき地医療にかける） ・研究者による瀬戸内海に関する講義	3 2	学校行事 総合的な学習の時間 家庭 体育 国語 社会	大竹市 海の家 あたた	阿多田小職員 本校職員 外部講師 漁師 医師
9～ 12月	事後学習 ・学習課題に基づく活動のまとめ ・成果発表会の計画・資料作成 ・中間発表会・食に関わる学習 ・礼状作成・作品製作 ・郷土愛，自然愛，勤労・奉仕等の学習	2 8	総合的な学習の時間 国語 図画工作 家庭 道徳	学校	担任 外部講師
11月	成果発表会 （外部講師を招待）	1	総合的な学習の時間	学校	担任
1月	学習のまとめ	4	総合的な学習の時間	学校	担任

【体験活動の概要】

（1）交流体験（阿多田小学校児童，漁師さんとともに）

阿多田島 海の家来て 友つくる

（児童の振り返りの俳句より）



交流会

1日目：「互いに自分たちの郷土を紹介し合う交流会」

阿多田小学校児童は海の生物について学習発表を行い，本校児童は「口和の食自慢（米・ブドウ・牛）」について，クイズを交えながら発表した。この交流会に向けた準備では，発表会というゴールのイメージを児童にしっかりとたたせるとともに，分かり易い発表になるよう，他学年の児童や先生を相手に発表練習（中間発表会※2）を行い，改善点を検討しながら学習を進めた。



野外炊飯

1・2日目：「共に夕食・朝食作り」 3日目：「夕食に招待」

夕食は，野外炊飯と“互いのふるさと食自慢（海の幸，山の幸）バーベキュー”で交流を行った。

山里に暮らす児童は，豪快な海の料理をたっぷり堪能した。夕食後には交歓会を行い，ブドウをプレゼントしたり，楽しいゲームを行ったりして互いに親しむ時間となった。



アピールポスター※1

3日目：「ポスターでふるさとのPR」

自分たちで考えたキャッチコピー「うますぎて 米(にめん)なさい」「口和でぶどうを見つけて楽しんで」などを盛り込んで作成した口和町のアピールポスターを、阿多田漁協の施設に貼らせてもらえるよう漁協へ児童全員でお願いに行った。漁協では、児童の依頼を快く了解してくださり、施設内の数ヶ所に貼らせていただくことができた。(下見時の打合せで承諾済)

(2) 奉仕活動 (海岸清掃 & ビーチコーミング)



海岸清掃



展示作品

漂流物 いいもの見つけて 作ったぞ

(児童の振り返りの俳句より)

3日目：「海岸清掃 (奉仕活動)」「思い出作品づくり」

体験活動の事前指導として、道徳の時間に「漂流ゴミのゆくえ」【3-(2)】の学習を行い、自然環境を大切にしていく心情を高めた。体験活動の最終日の早朝には、海岸の清掃に臨み、自分たちを楽しませてくれた海に感謝しながら意欲的にゴミを拾い集めた。また、「思い出のビーチコーミング」として、海岸の漂着物を寄せ集めて、思い出の作品を作り持ち帰った。作品は、校内で展示し活動の広報を図った。

*道徳の出典・・・「みんなで考える道徳」(日本標準)

(3) 海を知り、島の人を知り、山里へ



海での水泳体験

○海を知る

阿多田島で美しい海に出会い感動した様子。潜ったり、高いところからジャンプに挑戦したり、砂遊びをしたりと海での遊びを十分に体験でき、海のおもしろさと雄大さを実感することができた。

「今まで言葉では知っていたけれど、海が満潮や干潮になって、水が増えたり減ったりするのを初めて見て、面白かったです。」

(児童感想)



イワシ漁体験

○島の人を知る

事前に社会科で「巻き網漁」について学習した後、イワシ漁の体験を行った。最新鋭の装置を備えた漁船に分乗し、船団を組み、漁場へ向かう。力強い漁の様子を間近に見ることができた。

「私たちが食べる魚はこんな苦労があるからこそおいしいんだな。魚と漁師さんに感謝の気持ちをこめておいしく頂こうと思います。」

(児童感想)



生き方学習

3日目の午後、阿多田診療所の医師に話を聴かせてもらう機会をもった。「へき地医療に取り組む」という自分の夢を実現し、島民の命を守るために働く医師の生き方を学ぶ機会となった。島からの救急搬送時に患者が大金を払っていたことに対し、無料化への働きかけを行い、実現されたという医師の話聴いた児童は、その話を事後学習で劇化し、発表会で発表した。



海の学習

〇山里とつなげる

独立行政法人水産総合研究センターでは、センターでの仕事の内容、瀬戸内海の説明、危険生物などの話をうかがった。また研究船に乗せてもらい、船の内部や海水調査の実演を見学した。「豊かな海にするには、豊かな山が必要だ」ということを学んだ児童は、山里に暮らす自分たちの今後の生き方を考えるヒントを見つけたようだった。

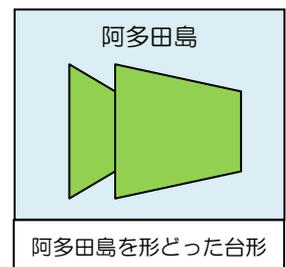
【体験活動の効果を高める事後学習】

○ 道徳の時間に、自然の美しさや偉大さに触れることで感動する心を育てることをねらい「カリブーの旅」【3 - (3)】の学習を行った。阿多田島での体験を話し合う場では、記録写真を用いたことで、全員が阿多田島のすばらしい海での体験を思い出し、感動したイメージを再び共有できた。

また、県指標による調査結果から、「自己肯定感」が低いという実態が見られたため、道徳の時間で「そんなことないよ」【1 - (6)】の学習を行った。「自分が嫌だ、できていない・・・」と書いていても、宿泊体験で寝食を共にし、お互いのよさをよく知ることができたことを生かし、周りの友だちから「そんなことないよ。阿多田島で〇〇なことをやれたじゃないか。」とよいところを互いに伝え合い、自信をもたせるような指導を行った。

○ 成果発表会前に町内の中学校の研究大会へ参加し、自分たちの先輩である中学生たちの地域学習の発表を観た。観る側の立場から、「(発表を観て)何を学べたか」という視点で作文に書かせることで、自分たちの成果発表会へ向けて明確な目標をもたせることにつながった。

○ 算数科の学習〔台形の面積〕で阿多田島を問題にし、自分たちの住む口和町との形や面積の違いを求めさせるなど、実体験と算数的活動を関連付けることで意欲付けが図れた。



○ 成果発表会では、阿多田島での体験活動から学んだこと、口和町との違いやつながり、口和町の誇りを伝えていくことをテーマにした。表現力の育成(ねらい)では、地域の様々な世代の方にいかにわかりやすく伝えるかを課題とした。グループ毎に発表計画書を作らせ、イメージを明確にさせた。中間発表会を設定し、振り返りの中で、互いに意見を出し合い、修正することを繰り返した。こうした進め方により、児童の発表意欲が高まるとともに、当日も自信をもって発表することができた。



成果発表会

【交流先や施設等との連携】

- 下見時に、阿多田小学校、漁業協同組合、海の家あたた、阿多田診療所など関係諸機関と打合せを行った。阿多田小学校とは、食事づくりや交流会の準備や進め方について、また、漁協とは、イワシ漁の体験に向け、打合せを複数回行う必要があった。
- 春に口和地域で米作り名人に教えていただきながら、もち米の苗植え、秋には稲刈り、はで干し、脱穀の後、冬に餅つきを行った。当初計画していた自分たちが栽培したブドウのプレゼントは、今年は天候不順のため不作となり実現できなかったが、交流会で口和の米についてもアピールしており、阿多田小学校へつきたてのお餅を送った。



収穫したもち米を使ったもちつき

【評価の工夫】

- 体験活動実施中、每晚、相手意識や協力といった視点を明確にした「1日の振り返りシート」を使い、振り返りをさせた。振り返ったことは、翌日の行動に繋げていくことを意識させた。また、「個人の反省→班での反省→全体での反省」という流れで振り返りを行い、個人評価と相互評価が入るようにした。
- 県指標の調査結果を児童や保護者に提示し、態度や行動を向上させるための意識化を図った。
- 阿多田島で家族への絵葉書を書く際、体験したことや楽しかったこと等を全体へ出し合うなど、活動を振り返りながら価値付けを行うことで、書く内容が明確になった。

「1日のふり振り返りシート」より

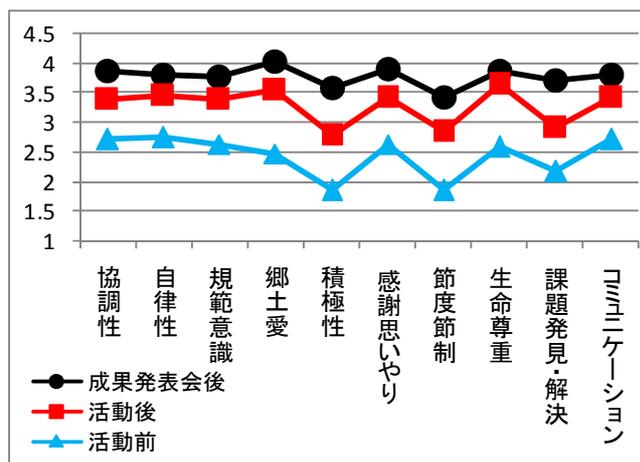
- ・ 阿多田島の人とやりたいことをすべてできたのでとても満足。明日はもっとよいことを増やし、生かしていきたい。
- ・ カレー作りでみんなが色々手伝ってくれた。明日は、みんなの役に立つようにしたい。

【安全面の配慮事項】

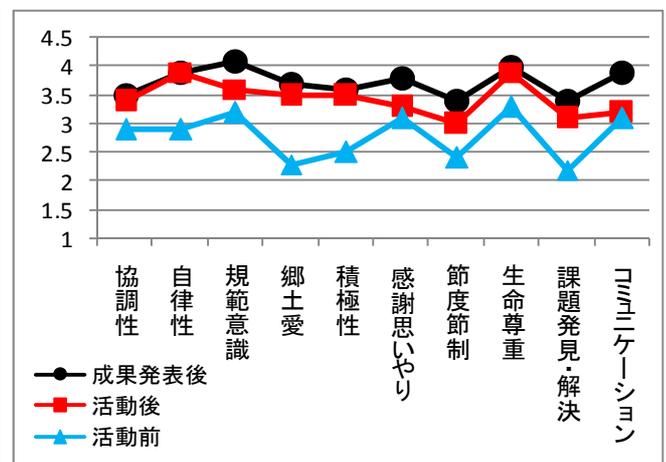
- 「危機管理マニュアル」及び「救急体制について」を作成し、全教職員で確認した。
- 事前に阿多田診療所医師と24時間対応受診、緊急時における漁船での病院搬送について連携した。
- 下見時、漁船に乗る上での安全対策など漁協関係者と打合せを重ねた。
- 各児童の健康調査⇒配慮が必要な児童の家庭と連携⇒実態把握⇒指導管理対策作成⇒全スタッフで確認⇒体験活動へと臨んだ。
- 緊急連絡網、緊急車両を準備し、緊急船を手配した。
- 全教職員による2交代制で実施する。(シフト表の作成)

【体験活動の成果と課題】

- 県指標を用いた児童の自己評価（活動前：6月・活動後：8月・成果発表会后：12月）の調査結果は次の通りである。

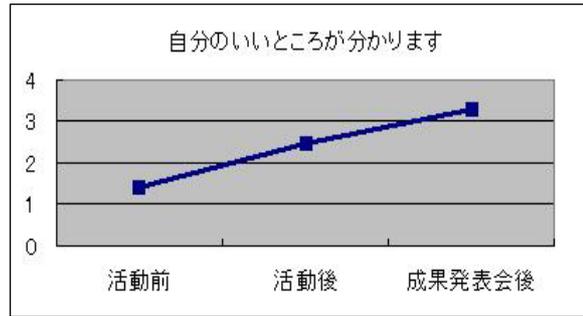


児童アンケートの結果



保護者アンケートの結果

○ この結果から、全ての項目において児童の自己評価は向上し、保護者回答でも同様の傾向が見られた。特に、児童の課題としていた自己肯定感に関する「自分のいいところ」の設問では、活動前の1.4から活動後の2.5、成果発表会後の3.3へと改善された。これは、担任が学級の中で認め合う場を作るだけでなく、学校生活全体にわたって全教職員が意識して児童の優れた言動をその場で誉め、担任と連携をとり合ったことが、自己肯定感を高める結果に結び付いたと考えられる。



- 保護者からは、「児童が進んで手伝いをよくするようになり、しっかりしてきた」などの意見が寄せられた。
- 高まってきている道徳性を今後も維持向上し他学年へも波及していけるよう、校内で推進体制を強化していく。
- 宿泊体験を根幹に地域での体験活動も多く取り入れたため、時間数が予定より若干超過した。各活動のねらいを明確にし、教科との関連付けや外部講師による活動の実施計画を精査し、適切な時間数で活動が終えられるよう改善を図る。

・ 私たちの発表では、「友だちとのきずな」「自然の大切さ」等を伝えることを頑張りました。友だちと力を合わせて発表練習をしたり、口和の人にも改めて感謝したりできました。発表後も、みんな自然とのつながりを改めて感じることができました。

・ ~略~ 僕は漁業を発表することになり、誰かが大道具や小道具、誰かがプレゼン作りをするように得意なことをするように自分たちだけでやり、完成させることができた。発表後、家族の皆に分かってもらえてうれしかった。

(成果発表後、児童感想より)

・ 家の手伝い（布団敷き、料理、配膳等）を頼まなくても自然とそばに来て手伝ってくれるようになった。

・ 総合的な学習の時間で、口和のことについて調べたことを家で話して聞かせてくれた。自分も知らないことがあり、分かるように説明してくれ、興味や意欲をもって学習していることがうかがえた。

・ 時間に余裕がある時、朝ごはんなど自分で簡単なものを調理し食べているところなどを見ると成長したと思う。

(保護者回答より)